

第2回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2024年6月4日(火) 19時~21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 61名
- ◇内容 SDGsの基礎的理解②
「持続可能な開発目標(SDGs)の達成に資する、持続可能な開発のための教育(ESD)」
及川幸彦准教授

SDGsの達成に資するESDの教育的価値

- ①ESDに取り組むことによって「教育の質が向上する」 ESDのE=教育を重視する視点
 - ②「持続可能な社会づくりに貢献する」 SD=持続可能な社会の創造を強調する視点
- この両輪の連結こそがESDを特徴づけるものであり、ESDの価値を示すもの

ESDとSDGsの策定経緯

1992	リオデジャネイロ地球サミット「アジェンダ21」	ESD
2000	国連ミレニアム・サミット	MDGs
2002	ヨハネスブルグ・サミット	<u>日本がESDを提案¹⁾</u>
2005	DESD国際実施計画を策定	DESD
2009	ESD世界会議	ボン宣言の採択
2014	<u>ESDに関するユネスコ世界会議(名古屋・岡山)²⁾</u>	GAP
2015	「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択	SDGs
2019	「ESD:Towards achieving the SDGs」の採択	ESD for 2030

1) 日本政府が2005年~2014年を「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」とすることを提案。その年の国連総会で「国連ESDの10年」が満場一致で決議される。その推進機関としてユネスコを指名。ESD国際実施計画を策定する。

それを受けて、日本国内では・・・

- 2005 内閣官房に関係省庁連絡会議を設置
- 2006 国連ESDの10年国内実施計画を策定
- 2011 国連ESDの10年国内実施計画を改訂

我が国におけるESDの基本的な考え方

「人格の発達や自律心、判断力、責任力などの人間性を育むこと」

「個々が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと」

後半5年は、生物多様性・気候変動・防災が大きなテーマとして挙げられる



2) 世界会議における成果

「あいい・なごや宣言」 「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」

「ユース・ステートメント」 「ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム共同宣言」
後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)³⁾開始
「ユネスコ/日本 ESD 賞」の創設

3) グローバル・アクション・プログラム」(GAP)

5つの優先行動分野

- ・政策的支援
- ・機関包括型アプローチ
- ・教育者
- ・ユース
- ・ローカル・コミュニティ

ESD の危機

UNESCO ウィーク 2017 (オタワ会議) 「GAP の5年間のあとをどうするか」

ESD とグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) を二大テーマに 21 世紀の教育の在り方について
議論 → 韓国の推す GCED (ESD を包括するのが GCED?)

GCED は、日本では〇〇教育のように ESD が包括する様々なテーマの一つという捉え

「2015年にSDGsが世界中に発信された、まさに今こそ ESD ではないのか」

「GCED で SDGs の掲げる様々な地球的課題は解決できないのではないのか」

→ ESD for 2030 (SDGs)

SDGs の達成に資する ESD

SDGsの達成に資するESD : ESD for 2030

■ 目標 (Goal of ESD for 2030)

- ・ SDG 4の不可欠な要素であり、他のすべてのSDGsの達成のカギであるESDの重要性の高まりに対応して、2030年のESDの全体的な目的は、17のSDGsの達成を通じて、より公正で持続可能な世界を構築すること。
- ・ 2030年のESDは、すべてのSDGsへのESDの貢献を強化することを提案。
- ・ 特にSDG 4の支援に焦点を当てて—教育2030アジェンダは、人類の生存と繁栄への学習コンテンツの貢献をより重視。

出典：文部科学省「持続可能な開発のための教育 (ESD) 推進の手引 (令和3年5月改訂版)」https://www.monst.go.jp/content/20210528_mst_koktoku01-100014715_1.pdf

教育はすべての SDGs の実現のカギである

SDGs に向けた教育を推進することが、人材育成を通じて SDGs 達成につながる

第2期 ESD 国内実施計画の策定

SDGs への多角的・連関的アプローチ

様々な課題、目標同士のつながりを意識した学びの構築

SDGs の一つの目標を解決しようと思えば、他の課題について考えなければならない

動画「SDGsについて考え行動しよう」（光村図書 HP：及川先生監修）を視聴

【質疑応答】

○オタワ会議で ESD が消えかかるようになった要因はどこにあるのか？

→ 国連の「～の 10 年」というキャンペーンは成功した例が少ない。10 年が過ぎたら終わりという感覚があったのではないだろうか。

SDGs と ESD を混同する人が多かった。SDGs が出てきたから ESD はもういいという見方。

国家間（日韓）の利害関係、思惑もあったのは確か。（どちらが主流になるのかという駆け引き）

○地域において ESD を進めたいと思っているが、それについて学べる場がなかなかない。一人で頑張っている状況なのでアドバイスをほしい。

→ 仲間、知り合いをとにかく増やすこと。勉強会に参加して同じ志を持つ人と関われば元気が出る。このセミナーもそうだろうし、山形の ESD 研究会もそうなのではないだろうか。

○動画でマイクロプラスチックが取り上げられていたが、その中でまだ実害が出ていないのにその問題に気付いたのはいつ？ そのような先見の明をもてるようにするには？

→ 科学的根拠がやはり大事になるだろう。様々な研究結果、データをもとにすると同時に、プラスチックのことだけを考えるのではなく、食物連鎖や生物濃縮など様々なことがらと関連付けてトータルに考えることが大事ではないか。公害病のように、実害が出てから動き出しているようではだめ。それを日本は経験したのだから。

【受講者と指導する先生のマッチング】（6月4日現在）

学生ティーチャー受講 17名

現職教員 スペシャリスト受講 3名

マスター受講 6名

ティーチャー受講 11名